

令和5年度 第1回 三次市教育振興計画策定懇話会論点整理

開催日時:令和5年11月7日(火)15時30分~17時21分

開催場所:三次市役所本館6階602会議室

1 意欲・主体性の育成

- 「楽しい」思いを持てる環境や自分で考えることや自ら行動することを年少時から取り組ませることが大切である。
- 一人一人に確かな学力を身に付けさせることが必要である。
- 教職員の子どもと向き合う時間確保等の環境整備が必要である。
- 部活動や授業等での集団での学びや活動が可能な環境で協調性や仲間とのかかわりを学ぶことが必要である。

2 共創によるひとづくり

- 課題解決策がない中でも、新たな価値を創造したり、納得解を見出すひとづくりが必要である。
- 直接体験や豊かな自然体験が多様にできる機会をつくることで、創造力や人間力を高める必要がある。
- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組を全市で進めることは大きな成果が期待できる。
特に、持続可能な三次につなぐために、校種や地域等を超え、多様な資源を取り込む取組が必要である。
また、学校が社会に開かれた教育課程を編成実施することが充実につながる。

3 多様性を認める中でのウェルビーイングの実現

- 世代を問わず、個々の価値観や多様性を認めあうことが共生社会の実現につながる。
- 家庭や学校以外で、子どもが安全に安心して過ごすための居場所が必要である。
- 他者とのつながりを広げたり、深めたりする取組が幸福感や意欲につながる。
- 不登校児童生徒について、個々の状況に応じた対策や多様な学びの場が求められる。
- 学校教育とともに、社会教育、家庭教育の一体的な充実を図る必要がある。
大人・保護者として、また地域の一員としての在り方を学んだり、ビジョンの共有ができたりする社会教育を進めることが必要である。
また、効果的な家庭教育支援も大切な要素である。
- 保幼小中高の学びや育ちのつながりを意識した取組が必要である。

4 三次ならではのブランドの確立と発信

- 三次ならではの、魅力ある環境を最大限生かす工夫や取組が求められている。